



「外国ルーツ青少年未来創造事業」が 目指すものとは

—現状認識、事業構造、ビジョンから—

2020.9.25

(公財) 日本国際交流センター

目次

1. 外国ルーツ青少年の取り巻く現状とは
2. 事業の全体構造とは
 - 1) 事業の4つの軸
 - 2) 活動を支える伴走支援
 - 3) 社会に向けた働きかけ
3. 一緒に目指す社会とは

1. 外国ルーツ青少年を取り巻く現状とは ①

◆外国にルーツをもつ子供・若者の増加にみえる課題

・教育システムに包摂されていない外国ルーツ青少年の増加

→学校教育などの外にいる外国ルーツ青少年を制度的枠組みの中に包摂していくことが求められる

・日本語、教科などの教育支援を受ける必要のある外国ルーツ青少年の増加

→学校の中、また外で適切な教育支援が受けられるような仕組みが求められる

・社会的・職業的自立に困難を抱えている外国ルーツ青少年の増加

→社会的・職業的自立に向けて必要な知識・技能・態度などを育めるような仕組みが求められる

・社会との接点が限られている外国ルーツ青少年の増加

→社会の一員として、自立に向けた意欲を高め、主体的に社会参画できる機会の提供が求められる

1. 外国ルーツ青少年を取り巻く現状とは ②

◆外国ルーツ青少年の包摂における社会資源の不足

・教育システムの中で活用可能な資源の不足

→人員不足、知識・情報の不足など

・支援における格差

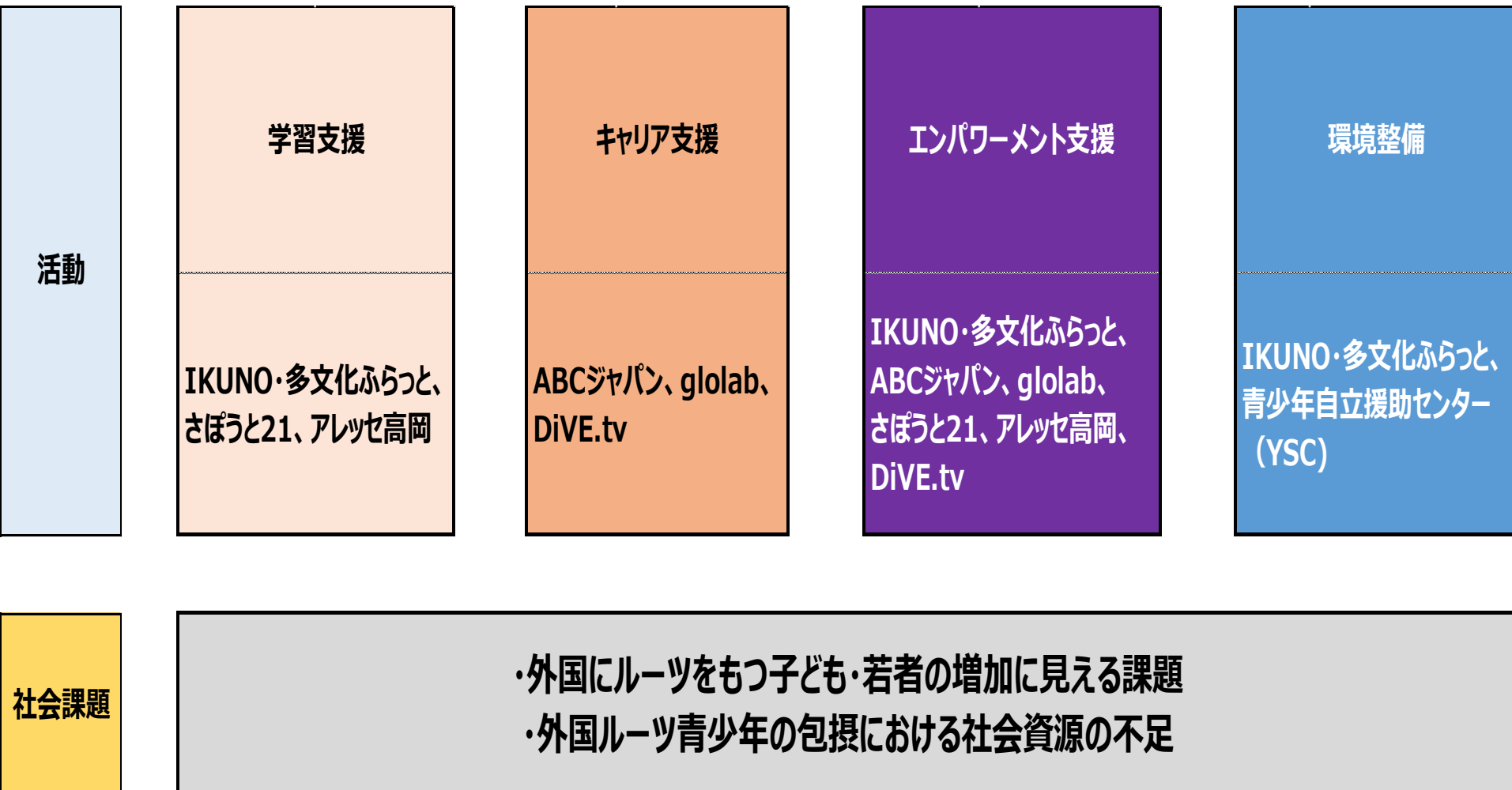
→地域（自治体）における格差、支援（教育、就労、メンタルヘルス、福祉など）における格差など

・社会における認識の不足

→地域住民、企業、公益活動団体など

2. 事業の全体構造とは ①-1

—事業の4つの軸①—



2. 事業の全体構造とは ①-2

—事業の4つの軸②—

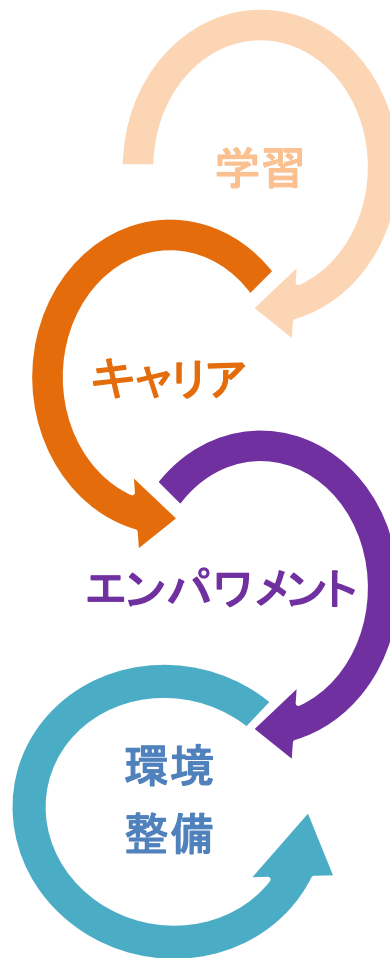
(アウトプットの例)

- ・日本語教室→300回：1,200名
- ・学習支援→2,100回：54,000名
- ・相談会→6回:360名

- ・進学・就労指導→20回：800名
- ・資格・就労講座→200回：6,500名
- ・キャリア体験→4回以上：200名

- ・関連活動・講座の参加者→1,500名
- ・相談者→1,200名
- ・アイデンティティ形成→7,000名

- ・情報発信・会員→800名
- ・新規の支援団体→35団体
- ・新規の支援者→750名
- ・成果発信→20回・12,000名



(短期アウトカムの例)

- ・日本語能力の向上
- ・入学・進学復学者数の増加
- ・学力の向上

- ・キャリア形成の基知識獲得
- ・キャリアの具体化(進学・就労)

- ・プログラムに関わる青少年の増加
- ・ルーツに対する肯定的認識の向上

- ・支援者・団体の増加
- ・地域における理解の向上
- ・ステークホルダーとの連携の増加

2. 事業の全体構造とは ②

—活動を支える伴走支援—

組織基盤強化

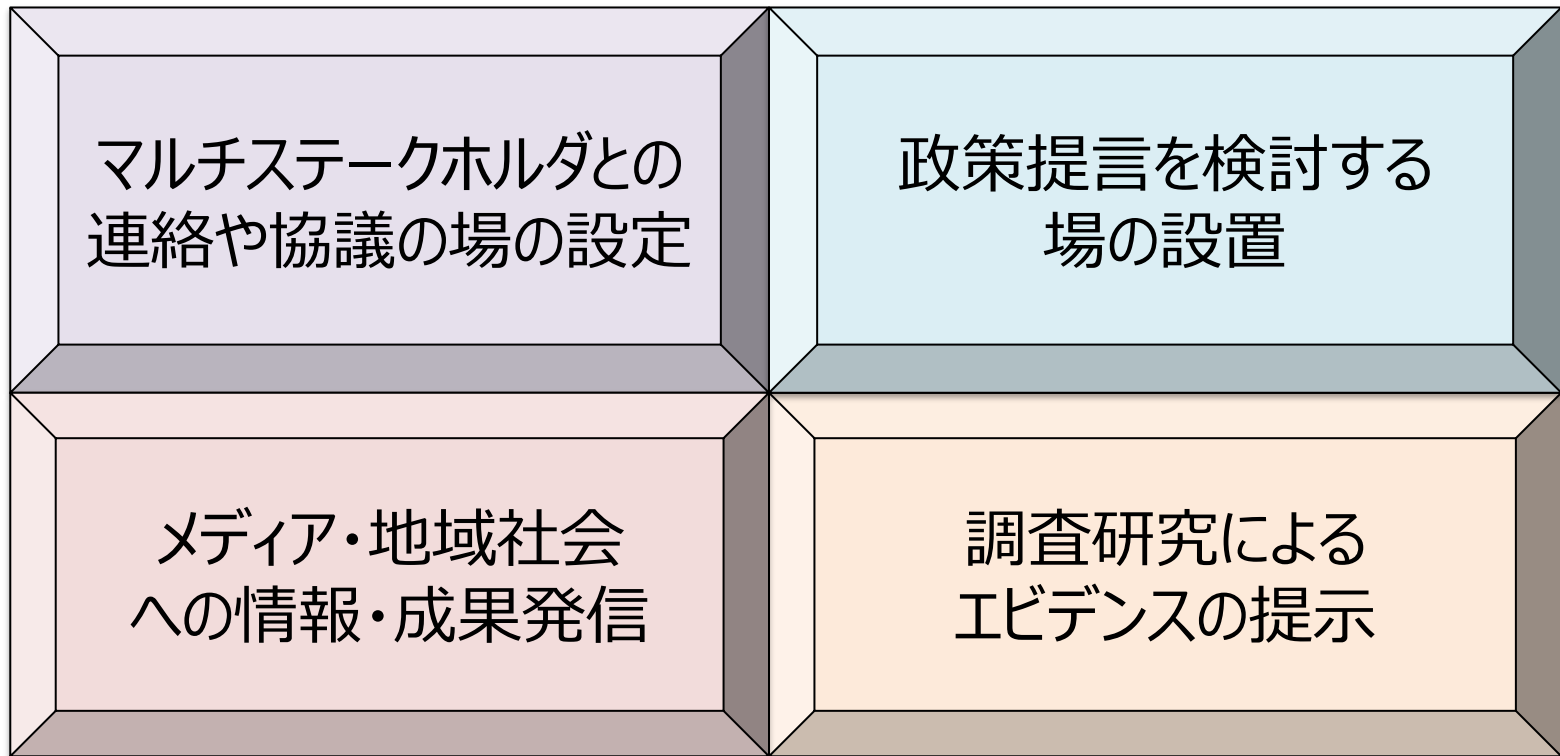
- 研修会・ワークショップの開催
- 人的サポート（プロボノ等）
→ 広報、資金調達、マネジメントなどのスキル・知識の獲得・活用

ネットワーキング

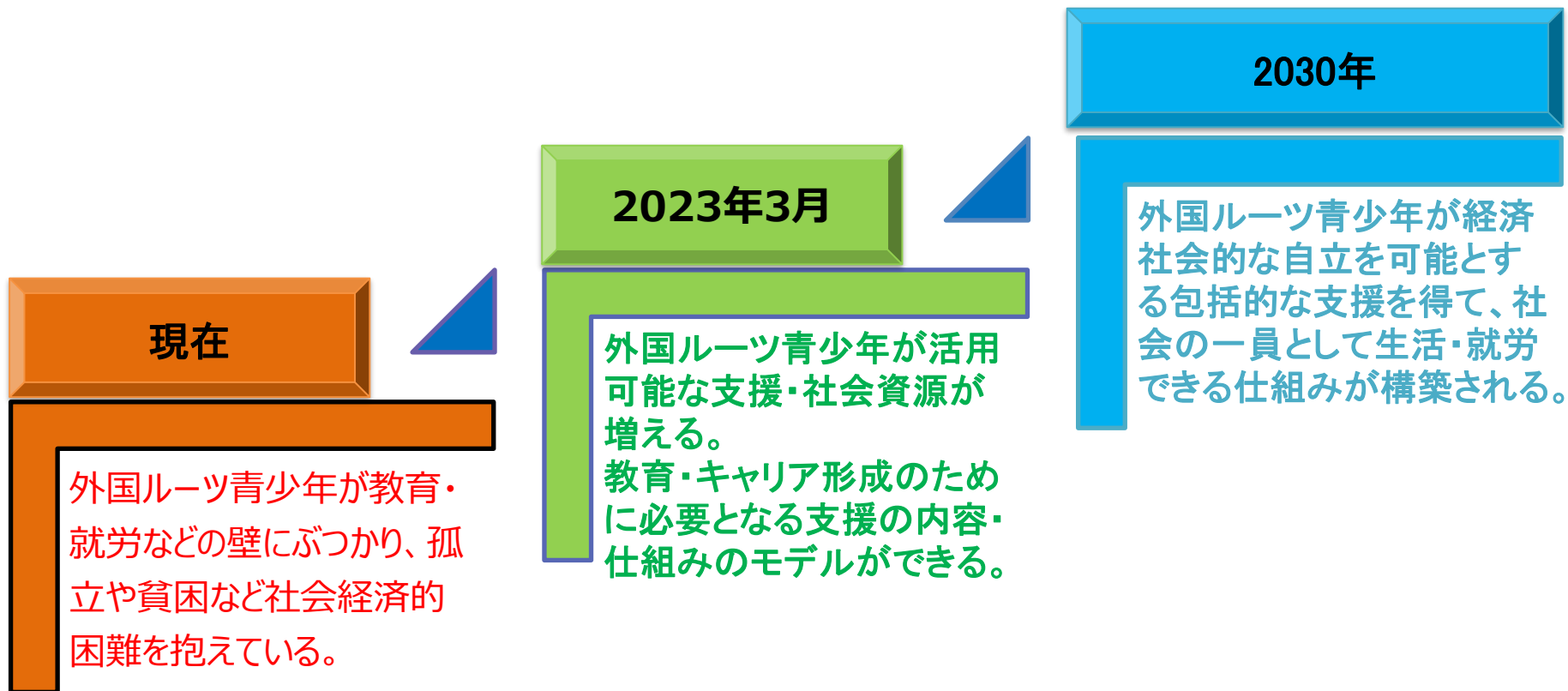
- ネットワーク会議
- ステークホルダー（行政、企業など）との意見交換、勉強会
→ 新たな連携・協力の機会の拡大

2. 事業の全体構造とは ③

—社会に向けた働きかけ—



3. 一緒に目指す社会とは ①



3. 一緒に目指す社会とは ②

